



消防大学校だより

消防大学校教育におけるドローンの活用について

災害現場においては現場状況の的確な把握や初動体制の確立が重要であり、今後の活動を飛躍的に向上させるために期待されるのがドローンの運用です。

消防大学校では、各教育訓練にドローンにより上空から広域を撮影し、訓練終了後、上空からの映像による活動検証を行い、訓練実施後の教育効果向上のために活用しています。

令和元年度は、消防研究センター協力のもと、警防科第105期の「街区火災対応訓練」及び幹部科第60期の「多数傷病者対応訓練」において、ドローンによる上空撮影を行い、活動検証を行いました。

本稿では、ドローンを活用したこれらの訓練について紹介します。

1 街区火災対応訓練

街区火災対応訓練は、近年多く発生している木造密集地等の広範囲にわたる活動困難区域等を想定し、火災初動時における現場指揮の重要性を理解させるとともに確実な現場指揮が執れるよう、実践的な現場指揮能力の向上を目的として実施しています。

この訓練では、平成30年度・令和元年度の2カ年で整備した街区ユニット(木造住宅や集合住宅風の模擬家屋)4棟と、既存の訓練棟と組み合わせ街区火災対応訓練を実施し、ドローンによる上空撮影を行い、現場指揮能力や各小隊の活動能力の向上のための有効戦術について検証しました。

終了後の学生研修アンケートにおいても評価が高いため、今後も訓練時にドローンによる上空撮影を行い、更に有効に活用することとしています。

<街区火災対応訓練>





2 多数傷病者対応訓練

多数傷病者対応訓練は、幹部科、警防科、救助科及び救急科において、医療資源や地域特性等が異なる各消防本部の学生が合同で訓練を実施し、的確な現場指揮能力や各小隊間の連携が求められる多数傷病者事案の活動全般の流れを確認しました。

訓練後の検証では、現場指揮能力、部隊運用能力及びトリアージ対応能力等の向上について、ドローンによる上空撮影の映像を多角的に活用し、自身のスキルアップ

のほか、得られた知識・経験を各所属に持ち帰り地域住民の皆様の安心・安全につなげることを目標に、積極的な意見交換が行われました。

終了後の学生研修アンケートにおいては、今まで行っていた平面撮影映像にはない活動全体を把握できる上空映像による検証は大変有意義であるとの意見が多かったことから、今後もドローンによる上空撮影を取り入れ、より効果的な教育訓練を実施することとしています。

<多数傷病者対応訓練>



最後に、今後各所属においても、消防大学校で実施したドローンによる上空撮影の映像を活用し、これまでできなかった活動全体を把握し有意義な検証を行うことに

より、現場指揮、部隊運用及び各小隊間の連携等の更なる能力向上に寄与するとともに、全国各地において消防大学校の卒業生が活躍することを心より期待しています。

問合わせ先

消防大学教務部
TEL: 0422-46-1712